

くじらい乳業回顧展

～ごあいさつ～

明治時代以降の近代の熊谷は、全国的に見てもそれぞれの業種における先駆者を数多く輩出しています。パイロット万年筆の創業者である並木良輔や、埼玉県で最初の写真館を開業した吉原秀雄、埼玉県第一号百貨店の基礎を築いた初代八木橋本次郎などがそうですが、そうした起業家・事業家の中に埼玉県の乳業飼育の開祖である初代鯨井治助が挙げられます。

鯨井家は代々熊谷市本町に住み、明治2年から砂糖・塩・油類の販売を営んでいましたが、熊谷地方が養蚕業の中心となるにつれ輸出用の蚕卵紙の製造も始め、横浜港へ何万枚と送り続けていました。しかし明治8年に横浜の倉庫が失火により全焼してしまいます。その残務整理中に治助は、横浜で外国人が牛乳を飲んでいることを目撃、その効用および牧畜業について感銘し、すぐに横浜港の牧畜家から当時のお金で200円を投じて乳牛1頭を連れ帰り、本格的な乳業飼育を始めました。

明治8年、治助は牛乳搾取商開業について認可を得ました。「くじらい乳業」の始まりです。当時は「牛乳を飲むと牛になる」などの風聞により、なかなか販路が広がりませんでした。しかし無料配達で牛乳を勧めるなどにより、次第に販路が広がりました。しかし事業は簡単には進まず、伝染病により牛が斃れたり、火災に見舞われたり幾度も困難が襲いました。しかしこれらの困難を乗り越え、明治20年には現在の宮前町一丁目あたりに広がっていた一帯の草原を大牧場に、事業を拡大して搾乳業を盛んにしました。

今回展は、初代鯨井治助が起業した「くじらい乳業」に関する様々な資料を展覧いたします。私たちが普段何気なく口にする牛乳の販売を、事業として成功させるために様々な壁にぶつかりながらも、不屈の精神で乗り越えた「くじらい乳業」の各種資料から鯨井治助の先見の明、そして「くじらい乳業」の歴史の息吹を感じていただければと思います。

最後に今回展の開催にあたり、「ご自身の家の歴史」ともいべき「くじらい乳業」に係る様々な資料をご寄贈いただきました鯨井家の皆さまに厚くお礼申しあげ、開催のごあいさつといたします。



いろいろな牛乳瓶



牛乳販売中



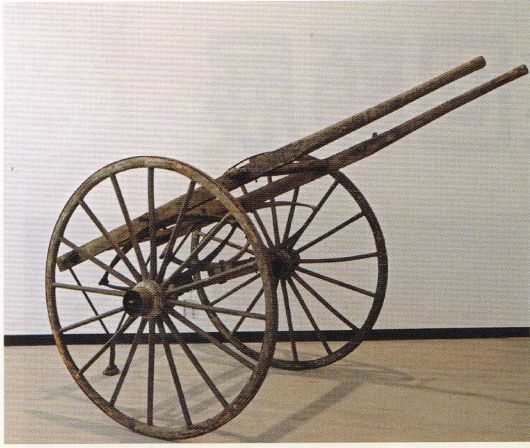
在りし日の鯨井牧場（宮前町1丁目付近）

会期：平成27年6月9日(火)～9月6日(日)

〔休館日：毎週月曜日(祝日を除く)、7/3、7/21、8/7、9/4〕

会場：熊谷市立熊谷図書館 3階 郷土資料展示室

時間：午前9時～午後5時 入場無料



配達車



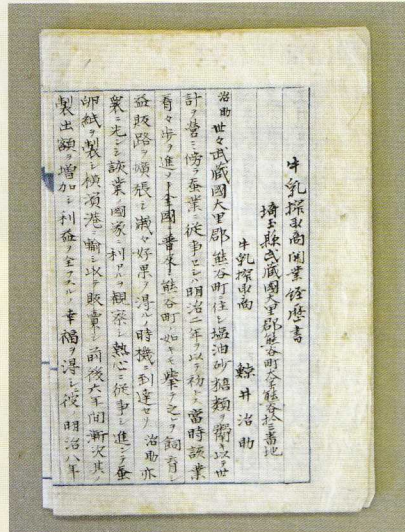
簡易冷蔵庫（配達用）



配達車に簡易冷蔵庫を乗せて販売中の風景



初期型の牛乳瓶と牛乳瓶掛け



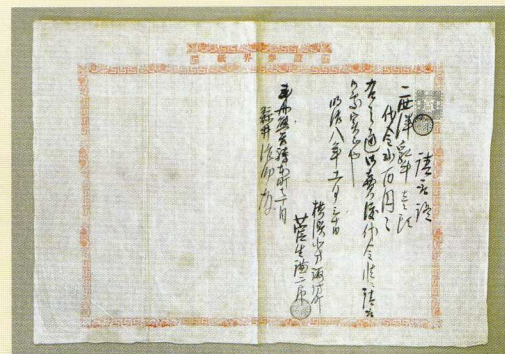
「牛乳搾取商開業経歴書」



「合名会社鯨進社定款」



牛乳瓶用のプラスチックケース



「請取証」明治8年